



# THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



## Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

### ROTARY: MANKIND IS OUR BUSINESS

#### 「ロータリー：人類が私たちの仕事」

2001～2002年度・国際ロータリーテーマ/リチャード D.キング会長

#### 「ロータリーの心を伝えよう—家庭に、職場に、地域に—」

2001～2002年度・東京新南ロータリークラブテーマ/大日方 真会長

本日の例会 11月16日 第725回例会

卓話

「文化遺産の保存修復と自立を助ける人材育成  
—アンコール・ワットの工事現場から—」  
上智大学アンコール遺跡国際調査団・教授  
石澤 良昭氏

先週報告 11月9日 第724回例会

◎卓話

「旅館のはなし」

社団法人日本観光旅館連盟  
専務理事  
中村 徳仁氏



◎幹事報告

11月8日、会長と、東京渋谷中央RCのチャーターナイトに出席してきました。

◎15周年記念式典祝宴委員会報告(高須委員)

12月14日(金)の15周年記念式典、祝宴及び忘年家族会の内容をお配りしました。奥様もぜひお誘い下さい。

◎慶事披露 誕生日祝い/青野信次君(11月1日)、

荒川欣也君(11月12日)

100%出席祝/渡部一元君(11年)、佐々木忠行君(8年)

◎出席報告 会員71名・出席38名・欠席33名(出席規定免除者6名)  
ビジター3名、ゲスト2名



11月9日/13件32,000円  
2001～2002年度累計633,000円  
多額の御寄付を有難うございました。

渡部一元/11年目の100%出席お祝有難うございました。佐々木忠行/8年間100%出席祝有難うございました。火曜会では話の間口を広げ過ぎ、まとまりのないものになり、申し訳有りませんでした。青野信次/本日のクラブ協議会ご出席下さい。福島さんご苦労様です。高須康有/先週の火曜会、多数のご参加有難うございました。佐々木さん、お世話になりました。親睦ゴルフ会、凶らずも優勝してしまいました。有難うございます。庄司泰典/11月6日のゴルフ会、ご苦労様でした。素晴らしく難しいコースをアレンジ頂き、申し訳ございませんでした。入沢頼二/佐々木さん、火曜会で久しぶりに天狗米吟醸を頂きました。やはり素晴らしいお酒です。谷村義雄/佐々木さん、火曜会でのお酒のお話はためになりました。山根一剛/佐々木さん、火曜会の楽しいお酒の話有難うございました。荒木昭文/佐々木さん、火曜会のお話とても面白かったです。鈴木重徳/親睦ゴルフ会でブービー賞を頂きました。土屋東一/福島さん、ご苦労様です。荻野道雄/寒くなりました。福島さん、ニコニコご苦労様です。福島賢哉/多額のニコニコ有難うございました。今日はクラブ協議会です。宜しくお願ひします。

◎第3回クラブ協議会

テーマ「こころの不良債権と職業奉仕」

(とき) 2001年11月9日(金) 例会後13:40～15:00

(ところ) 東京全日空ホテル 地階 八雲の間

(出席者) 大日方、小澁、河原、山根、馬場、尾関、伯井、小杉(修)、吉岡、庄司、鈴木(重)、島田、吉田(用)、西澤、高須、小杉(真)、荒木、渡邊、入沢、渡部、圓谷、谷村、福島、青野(順不同、敬称略)

職業奉仕について理解を深めよう 青野職業奉仕委員長

職業奉仕の理解は難しく、特に「ロータリーの綱領」は何回読んでも難解である。人格的に「己」が問われている時代だが、これを考えることが職業奉仕につながるのではないだろうか。

こころの不良債権とは 福島職業奉仕副委員長

「こころ」の定義で1週間悩んでしまった。「こころの不良債権」という言葉は雑誌の中で、ここ3年の自殺者が過去最高の3万人だったことに関して、作家の五木寛之氏が使っていた。「職業奉仕」は経営者が日常気をつけていることである。外務省機密費、雪印乳業事件等の社会問題が出てきているが、自分だけ良ければいいという風潮の根底には、心の貧しさがある。これが「こころの不良債権」につながる。良心、道徳、倫理観を見直す必要がある。

弁護士の立場から 馬場会員

弁護士という職業は本来「職業奉仕」との結びつきが強い。顧客からの依頼があって仕事がスタートし、顧客に喜んでもらって報酬を頂く。常に顧客最優先である。事務運営の為に収益は必要だが、費用は最低限に押さえるようにしてきた。しかし、司法改革により弁護士の数が増加し、活動に対する制限も緩和される方向にある。従来の「待ち」の姿勢から「攻撃的」な事業形態に変化して行くと思われる。このような環境変化の中で、果たして今までのような素朴なやり方が通用するのが疑問である。

外科医の立場から 小澁会員

医者になり立ての頃、骨肉腫にかかった16歳の少年の足を切断した。その後、少ない給料から義足に合う靴を特注してプレゼントしたことがある。治療をすれば治る病気と違い、切断された足は元に戻らない。癌などで胃を切除した場合も同様である。これは「こころの不良債権」として一生残る。心の悩みを持っている人は多い。心の癒しが必要である。医者は、うまく行って当たり前、まずければ「やぶ医者」と呼ばれ、下手をすると訴えられる。苦しい職業だが、ロータリーに入って職業奉仕がどんなものか分かるようになってきた。

建設業の立場から 鈴木(重)会員

欧米諸国と比較して日本の都市計画は貧しい。これは、都市計画を管轄してきた国(旧内務省=警察)自体が国民に対して“we serve”の意識を持っていなかったせいではないか。先日のNYテロ事件でWorld Trade Centerビルが崩壊したが、設計者が本当に職業奉仕の原点に立った設計をしていたら、全部崩壊することとはなかったはずだ。神の子として“we serve”の考えが発達し



て来た西洋と違い、日本では和を尊んだ聖徳太子の考え方が「建設業の談合」に結びついてしまった。不良債権が増えてところが痛むのが「こころの不良債権」であろう。

## 国際的及び教育的な立場から

## 渡部会員

日本で8年、海外の大学で10年教えた経験では、最近倫理が通り難くなって来た印象を抱く。「国際的」というのは19世紀の概念で、「民際」が20世紀の考え方である。人類の幸福には、1人1人の声が大事。日本の国際信用度はゼロ。これからは個人レベルでの国際理解、認識、対応が必要となる。教育の面では、日本の戦後教育は間違いや誤りが多い。根性や辛抱で未来は開けない。現代の若者には他人を慮る心(awareness)、つまり「福は内」ではなく「福は外」という意識を植付ける必要がある。国際も教育も未来指向の分野であるが、ロータリーも、これからは100年前の「原点に戻る」のではなく、「原点に進む」という未来指向の考えで進んでいくべきではないか。

## まとめ

## 渡邊職業奉仕委員

R Iの議決に基づき”he profits most who serves best”の文言が削られた。これは、R Iの活動が個人の職業奉仕から団体奉仕に移ろうとしていることを意味しているのだろうか。でも「超私の奉仕」はまだあり、個人が行う職業奉仕がロータリーの「幹」であることには間違いない。当クラブとしては、これからも個人中心という考えを守って行くのか、それとも世の中の流れに従うのか、再度考え直す必要がある。

## 11月火曜会報告

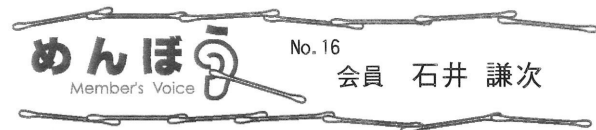
出席者(25名、順不同・敬称略) 庄司、吉田(用)、圓谷、高須、武下、本嶋、谷村、佐々木、吉岡、立林、市川、西澤、岸、河原、鈴木(康)、新保、早川、荒木、山根、石井、入沢、大日方、村山、小原、阪口

11月6日18時から全日空ホテル37階アストラルで、火曜会が開催されました。本年最後ということに加え、「利き酒」に惹かれた会員も多かったとみえ、出席者は何と25人という大盛況でした。スピーカーの佐々木会員が「日本酒をきわめるお話」というテーマで日本酒に関する蘊蓄を披露して下さいました。実は佐々木会員は8年前にも同様のテーマで火曜会で話をしようとしたのですが、一部会員から躰聲を買い、取りやめた経緯があっただけに、清原親陸委員長からのお願いを最初は固辞されていました。でも最後は清原委員長による「三顧の礼」ならぬ「五顧の礼」に心を打たれ、スピーカーを了承して頂きました。有る意味では、今回は佐々木会員にとって8年目の敵討ちの心境だったかも知れません。

そのためかどうか、準備に対する意気込みには大変なものがあり、何と30冊以上にも及ぶ日本酒の書籍を凝縮して4ページの資料を作成し、8000円もする「日本酒度計」なるものまでわざわざ購入・持参の上、日本酒の歴史に始まり、分類、製造方法、高い酒と安物の酒の違い、などに関して懇切丁寧の説明して頂きました。会員一同佐々木会員の、まるで「大学教授」のような博識度には驚嘆してしまいました。これからは、皆さん「佐々木博士」とお呼びしましょう。最後に、皆さんお待ちかねの「利き酒」になり、低級酒から、高級酒、超高級酒までを飲み比べ、その味の違い、かつ超高級酒の芳醇な味と香に酔いしれたのでした。

なお、佐々木会員の名誉のために付け加えますと、ここまで日本酒に対する造詣が深くなったのは、決して佐々木会員が酒好きだった訳ではなく、本業の建築設計で酒蔵の設計を引き受けるようになり、嫌いではないので研究したため、とのこと。

佐々木会員、次はぜひ「ワインをきわめるお話」をお願いします。勿論「利きワイン」付きで。(圓谷 記)



## 市原交通刑務所の一日管外研修

10月16日(火)、私が役員をしている渋谷交通安全協会安全管理者部会の一日管外研修で、千葉の市原交通刑務所を訪れました。

私自身は、刑務所経験は勿論なく、見学自体も初めての経験であり、若干緊張しながら刑務所の門をくぐりました。研修室で、当日の所内での注意、受刑囚の生活のビデオ、市原刑務所の歴史、現在の所内の状況等の説明を刑務官より聞き、いよいよ入所の時が来ました。ここを訪れた方ならお分かりだと思いますが、この刑務所には塀がありません。3m位のフェンスがあり、その上に鉄条網の忍び返しが外を向いて付けられているだけでした。これは中からの脱走より、外からの侵入に備えているとの事でした。二列、右側通行を守り私語は一切できません。また、受刑囚を見つめる事も禁止されています。肅々と進みながら、味噌、醤油の製造工場、自動車の修理工場、家具などの物品工場などを見学し、新人寮に着きました。窓には鉄格子があり、居室、寮の出入り口とも施錠してありました。刑務官が出入りの度に一々鍵を取り出していました。なかなか厳しいなと思いながら次の準開放室(刑期の概ね3分の一を過ごす寮)に移ると、窓の鉄格子や寮の出入り口は施錠されているものの、室内は自由に往来が出来、2段ベットを並べた大部屋になっていました。

所内の受刑者は皆動作がきびきびして、見ていて気持ちが良い位でした。作業も淡々とこなしていました。こういう人たちが重大交通事故を起こし実刑を受けたなどは想像も出来ませんが、これが現実なのです。

次の開放寮は窓の格子もなく、高いフェンスも有りません。施錠は夜間だけで、寮内での行動規制はより緩和されています。最後の寮は、出所に備える設備が整っている希望寮で、個室になっています。

先ほども書いたように、この市原刑務所には塀がありません。その上、樹木、花が大変多く、手入れが行き届いています(受刑者が手入れをするとのこと)。グラウンドは野球場が2面取れるほど大きく、やはり手入れも十分なようでした。同じ敷地内に市原少年刑務所も有ります。また、車で10分も行けばゴルフ場がたくさん有り、大変環境の良い場所です。でもやはり刑務所には変わりはありません。

受刑者の罪名は殆どが道交法違反(48%)と業務上過失致死(34%)です。内訳では、飲酒運転43%、無免許25%、飲酒無免許11%でした。私も勿論運転はしますが、18歳の時に免許を取ってから32年間に、交通違反としては駐車違反1回、スピード違反1回のみで、無事故で来ました。でも市原刑務所を見学して、もう一度ハンドルを握るという事の重大さを認識し、会社の社員にも徹底して教育をしていこうと思うようになりました。

(11月23日は「勤労感謝の日」で休会です)

次々週予告 11月30日 第726回例会  
卓話予定

「社債格付から見る日本経済」

東京ロータリークラブ会員  
株式会社三國事務所 代表取締役 三國 陽夫氏

## 東京新南ロータリークラブ [http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth]

〔会長〕大日方真 〔副会長〕谷村義雄 〔幹事〕新保國彦

〔会報委員長〕小杉真史 〔今週の担当〕圓谷正和

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h9.dion.ne.jp  
例会日・例会場/毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111